



# 新 毎 日 新 聞

夕刊

4月10日（月）

2017年（平成29年）

発行所：北九州市小倉北区紺屋町13-1

〒802-8651 電話（093）541-3131

毎日新聞西部本社

福岡市中央区天神1 毎日福岡会館〒810-8551

電話（092）781- 編集3100 事業3636  
販売3221 広告3300

毎日新聞福岡本部

## お年寄りの

## 足も支える



## ふるさと納税

## 佐賀・NPOが運営費調達



市役所での用事を終えた高齢女性（左）を自宅に送るため、「かわかみ・絆の会」が運行する車両に案内するボランティアドライバー＝佐賀市で

月、地元の民生委員経験者や住民らが中心となって絆の会を設立し、サービスが行き届かない介護保険対象外の65歳以上を対象に病院などの送迎支援を始めた。現在は週4日送迎しており、運転をやめた高齢者もいる。

利用者はガソリン代として1キロ当たり10円を負担するが、有償ボランティアの運転手への謝礼や車の維持費などで年間約150万円かかる。着目したのがふるさと納税の活用先としてNPOを指定できる佐賀県の制度だ。県に入る寄付のうち95%が、寄付した人が指定したNPOに回る仕組みで、NPO側が返礼品も用意できる。絆の会は地元のブランドみかんの詰め合わせなどを返礼品とし、昨年10月から協力を募った。

全国のふるさと納税先を選べるウェブサイトに掲載され反響は広がり、3月末までに約650万円の寄付が集まった。返礼品に品切れも生じたため、現在は一部を除き受け付けを中止しブルーベリーなどの収穫が始まる今月中に再開する。返礼品の費用や送料など経費を差し引くと運営に回せるのは半分程度だが、松崎理事長は「今年度の運営費用はめどが立った」と胸をなで下ろす。

地元でみかん農家を営む中島美敏さん（60）は「母の通院で絆の会に助けられているし、寄付のお礼で地元の農産物を知ってもらうこともでき、励みになる」と喜ぶ。松崎さんは「免許返納の後押しにもつながっている。高齢になっても元気に生活できるふるさとの活性と、産地活性の両立を進めたい」と話した。

通院や買い物に出かける高齢者の移動支援に取り組む佐賀市大和町のNPO法人かわかみ・絆の会（松崎逸夫理事長）が、車の整備費などの運営資金をふるさと納税でまかなっている。ふるさと納税の支援先にNPO活動を指定できる佐賀県独自の制度を活用した。免許を手放した高齢者の移動支援ニーズが高まる中、運営手法が注目を集めそうだ。

【青木絵美、写真も】

絆の会が支援する大和町の川上小学校区は、高齢化率約3割に上る。路線バスが約3割に上る。路線バス

スの運行は1時間に1本程度と少ないうえ、バス停は遠い。そこで2015年10